

学位論文審査の結果の要旨

土屋 成慶

本論文は、単位農協が卸売市場流通と市場外流通を両立させるために、東京に営業担当部署を設置している代表的な4農協の営業活動を分析対象として、聞き取り調査と関連資料から、①消費動向の把握、②出荷卸売市場の選別基準、③販路開拓の実態、④連合会の単位農協への販売活動の支援について分析を行った。

論文では、第1に消費動向の把握のためには、卸売業者や専門商社から直接情報を入手し、販路の検討のためには農協による直接営業が重要であること。第2に、農協は決済機能、共選施設の整備、顧客訪問および販売促進活動などのマーケティング・パックの拡充によって、継続的取引関係を実需者と図ることが出来ること。第3は、連合会の単位農協の支援に関して、農協は営業拠点として県外事務所の提供、消費宣伝活動、直接取引における連合会による代払いなどの支援を享受しているが、連合会による単位農協のブランド構築や営業活動の支援など今後もきめ細かな対応が必要なことを明らかにした。

以上のように、本論文は、単位農協の野菜営業担当部署の販売戦略に関して新しい知見を有しており、論文の内容、構成、および公表論文数などから、本学位論文審査会は、全員一致して、本論文が博士(農学)の学位論文として十分価値があるものと判断し、合格と判定した。

なお、論文内容を明確に表す題名に修正すべきであるという審査委員会の指摘を受けて、論文名を以下のように変更した。

<変更前>

農協における野菜営業担当部署の類型化と販売戦略の課題に関する研究

<変更後>

農協における野菜営業担当部署の販売戦略に関する研究